

学校だより

百折不撓

上野原西中学校

上野原西中学校 学校通信 第4号

令和6年10月9日(水)

文責 校長 森 卓弥

TEL 62-3103

若葉祭を終えて、一回り大きく成長しました！ 充実した学園祭となりました。

2学期の始業式の中で各学年の代表と生徒会本部が、今後の抱負について発表する場面がありました。その中で、9月14日(土)に開催される「第16回 若葉祭」で、自分たちがどのような思いで取り組んでいくのか発表しました。

若葉祭での各学年の発表は、それぞれの学級で独自に考えたテーマを設定し、できるだけ多くの生徒が関わり合いを持てるように工夫されたものでした。生徒は仲間達と協力しながら、何か物事を成し遂げるときには、人と人が関わり合いを持ち、調整しながら一つものを創り上げる事を学んだことと思います。

□1年生代表の若葉祭への抱負と若葉祭での発表

「2学期は学園祭が初めてで、体育の競技は何をするのか分からないので不安です。でも、みんなとクラス発表をするので、協力しながら全力で楽しみたいです。」



1年生の学級発表は、なんの苦勞もせず、時を忘れ、面白おかしく暮らした「浦島太郎」の劇を通して、今の自分たちの生活を振り返るものでした。苦勞や軋轢のない生活が本当の意味で良い人生といえるのか、そういう場面を乗り越えることで成長できるのではないかと訴えるものでした。

□2年生代表の若葉祭への抱負と若葉祭での発表

「2学期は西中学校の最大行である若葉祭があります。若葉祭では1学期に培った団結力を活かし、一人一人の良さや個性を発揮し、学年を超えて一つの目標に向かって頑張っていきたいです。」



2年A組は、「桃太郎」を題材にした

「ヤマ太郎」の劇でした。そこに登場する、猿・キジ・犬がそれぞれの役割を果たすことで鬼退治するという話になぞらえて、A組には個性的な生徒達がたくさん集まっているけれど、一つの方向を目指すことでそれぞれ持っている個性が機能して、役割を果たし学級としてまとまっていく話でした。



2年B組は、オリジナルの部分と「となりのトトロ」を組み合わせた劇でした。学級に転入してきた生徒と、不思議な体験をするという劇を、学級の全員で関わり合いながら創り上げる独自性のあるものに仕上げました。

□3年生代表の若葉祭への抱負と若葉祭での発表

「3年生として若葉祭などのイベントは今年が最後の年になるので、自分たちがリーダーとなり、率先してこの若葉祭を成功させられるように頑張っていこうと思いました。」

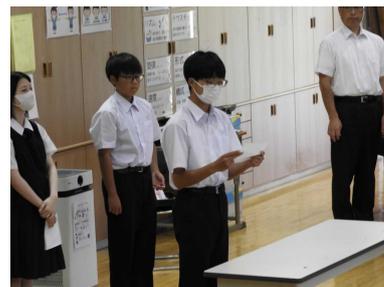
3年A組は、日常の些細な誤解から、SNSの使い方によって人間関係を壊してしまうようなオリジナルな劇を披露しました。SNSは今の私たちにとっては、身近なもので、何の抵抗もなく普通に活用しています。しかし活用の仕方を間違えると、人の心を傷つけ発信者の意図しないかたちで汲み取られ、誤解を生むことや様々な情報が大量の人に一気に広がり、收拾がつかない危険性があります。顔を見合わせてコミュニケーションをとることの大切さが伝わってきました。

3年B組は、「白雪姫」を題材にした劇でした。本当なら仲の良い7人のこびとは、なぜか仲が悪いという設定です。白雪姫を仮死状態にしたお妃をさっさと倒し、王子に不思議な薬を飲ませてもらい復活します。普段は仲の悪い個性溢れるこびと達も、共通の目的を見つけて一致団結するというテーマを描きました。



□生徒会代表の言葉

「若葉祭は、日常の諸活動の積み重ねの延長線上にあって、その成果を家族や、地域の方々などの多くの方に発表して活動を理解してもらえ、絶好の機会になると思います。当日最高のパフォーマンスをするために、これからも引き続き、自分たちができる限りの準備や練習などの活動を通して、当日の学園祭が思い出に残るものになるように努力していきましょう。」



生徒会本部の皆さんは、新たに学年ごとのクイズ大会を企画・運営しました。回答できればそのまま、ブロックのポイントにつながり、生徒達も大変な盛り上がりでオープニングを終えました。

上野原西中学校のホームページのQRコードです。



※生徒たちの様子をホームページでご覧ください。携帯電話でも見ることができますが、パソコンで「上野原西中」と検索してください。